



上野間小だより 令和3年3月24日号

互いの瞳を見つめ合うということ

校長 吉川 正 美

19日、おだやかな晴天の下、卒業式を行うことができました。来賓は、地域の教育委員さんのみ、保護者の方も2名まで、在校生の参加も4・5年生のみと、心苦しい制限を付けさせていただきましたが、昨年は中止した校舎前での見送りを行うなど、心づくしではありますが、立派に成長した6年生の卒業を祝うことができました。

その中で、校長として私しか味わうことのできない感動が一つありましたので紹介します。それは、卒業生一人一人に卒業証書を手渡す際のことです。卒業生は一人ずつ順番に校長の前に来て、担任から呼名されて一歩踏み出し校長と対面します。凛々しく爽やかな素晴らしい返事で式場内の多くの方は感動していたでしょうが、校長である私は、それに加えて、返事をする際に真っ直ぐこちらを見つめるまなざしにも感動していました。次々と自分の前に進んでくる卒業生たちの、純粋に真っ直ぐこちらを見つめる瞳の美しさ。なんて素晴らしい子たちなんだろうと思わずにはいられません。素晴らしい卒業式でした。

優れた役者さんたちを表現する際に、「目力（めぢから）」という言葉が使われることがあります。「目は口ほどにものを言う」ということわざもあります。コロナ禍で人と会うときはマスクを付けた顔でしかお会いできない昨今ですが、互いの目（瞳）を合わせることはできます。今回の卒業式で、あらためて「目（瞳、まなざし）」の大切さを感じました。

今、学校では、マスクをして手を洗う、互いに距離をとり換気する、大きく息を吐き合ったり密になったりする活動はしない、外部の人との接触を極力避けるなど、コロナ禍での学習様式が行われています。また、文科省のGIGAスクール構想で、児童生徒一人一人にタブレットPCが配られ、オンライン授業なども少しずつできるようになります。社会全体としても、ネット注文やオンライン会議などが広がり、直接面と向かって人と会うことが減ってきました。

でも、やっぱり直接会って、相手の目を見て話をし、互いの瞳を見つめ合って理解し合うことが大切なんじゃないかと、卒業生たちに見つめられて思い直しました。最後にまた、素敵なメッセージをもらったような気がします。

23名の卒業生の皆さん。卒業おめでとう。そして、ありがとう。



4月当初の予定

<4月の予定>		
5日	入学式準備（新5・6年登校）	
6日	入学式（新1・5・6年登校）	
7日	始業式（この日より全学年登校）	
8日	給食開始（2～6年）	
14日	交通安全教室（1・2年）	
15日	交通安全教室（3～6年）	
19日	給食開始（1年）	
23日	授業公開・PTA総会・学級懇談会	
27・28・30日	家庭訪問	

みはまの教育・合い言葉より 「伝えよう! 『もったいない』の言葉と心

ご寄附ありがとうございました

今年、還暦を迎えられる上野間丑寅会の方々が来校されました。厄才記念として本校にご寄附をいただきました。先日、お越しいただいた初老厄才（美上会）のご寄附と合わせて、アクリル板、耕耘機、石油ファンヒーターを購入させていただく予定です。ありがとうございました。

6年生を送る会（2/26）

各学年から心温まるお祝いメッセージがありました。



【1年生】



【2年生】



【3年生】



【4年生】



【5年生】



【6年生退場】

卒業式（3/19）

好天の下、立派に成長した卒業生たちの姿が輝いていました。



【卒業生入場】



【卒業証書授与】



【卒業証書授与】



【卒業生退場】



【式後の教室で】



【見送り】

一年間、上野間小学校にご支援・ご協力をいただいた保護者・地域の皆様に深く感謝いたします。ありがとうございました。